

鳴門教育大学附属中学校
学校関係者評価報告書

(令和6年度)

令和7年3月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

1. はじめに -----	2
2. 評価の目的 -----	2
3. 評価のスケジュール -----	2
4. 学校関係者評価委員会委員 -----	3
5. 本評価報告書の内容 -----	3
6. 本評価報告書の公表 -----	3

II 学校関係者評価結果

1. 総合評価 -----	4
2. 評価項目ごとの評価	
（1）評価項目1「主体的・対話的で深い学びの実現」 -----	4
（2）評価項目2「いじめの防止」 -----	5
（3）評価項目3「基本的生活習慣の徹底」 -----	6

参考：学校の現況及び目標 -----	7
--------------------	---

I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

1. はじめに

本報告書は、保護者、学校評議員、大学教員、地元の企業経営者で構成された学校関係者評価委員会が、鳴門教育大学附属中学校の教育活動の観察や校長等との意見交換等を通じて、附属中学校の自己評価の結果について学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

2. 評価の目的

学校評価の目的は、以下の3点である。

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

学校関係者評価は、学校の自己評価の結果について学校関係者の立場から評価することを通じて、「① 自己評価の客観性・透明性を高めること」「② 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たること」を期待して実施されるものである。

※ 参考 文部科学省（2016）「学校評価ガイドライン〔平成28年改訂〕」

3. 評価のスケジュール

時 期	内 容
令和6年7月	第1回学校関係者評価委員会（委員長の選出、評価項目等の確認）
随時	委員が随時、学校を訪問して行事・授業等を参観、校長と意見交換
令和7年3月	第2回学校関係者評価委員会（自己評価書の審議・総合評価、評価報告書のまとめ）

4. 学校関係者評価委員会委員

稲木 紀彦	附属中学校学校評議員 附属幼稚園同窓会長 (株)トクジム代表取締役社長
○ 小坂 浩嗣	鳴門教育大学大学院教授
手束 直胤	社会福祉法人有誠福祉会医療法人有誠会理事長 附属中学校卒業生
笠井 栄作	前附属中学校保護者会会長

○ は委員長（役職は令和 6 年 4 月現在）

5. 本評価報告書の内容

本評価報告書の「Ⅱ 学校関係者評価結果」では、

評価項目 1 「STEAMIC（STEAM for IC）教育の推進」

評価項目 2 「いじめの防止」

評価項目 3 「基本的生活習慣の徹底」

について全ての観点の内容を総合的に判断し、学校の教育活動・運営全体に関する総合評価を

A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取組が不十分である

の 4 段階評価で記述している。

上述した 3 つの評価項目についても、各項目で同様の 4 段階評価で記述し、主な「優れた点」「改善を要する点」を併せて記述し、総合評価の根拠・理由を示している。また、「保護者対象学校評価アンケート」や「全国学力・学習状況調査」の結果についても適宜記述している。

なお、「参考」として、「学校の現況及び目標」を添付した。

6. 本評価報告書の公表

本報告者は、本評価報告書を鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ（<http://www.naruto-u.ac.jp/schools/06/004.html>）への掲載により、広く社会に公表する。

II 学校関係者評価結果

1. 総合評価

鳴門教育大学附属中学校学校関係者評価委員会は、
評価項目1「STEAMIC（STEAM for IC）教育の推進」
評価項目2「いじめの防止」
評価項目3「基本的生活習慣の徹底」
の内容を総合的に判断し、4段階評価中の「A 十分に達成されている」と評価する。

この評価に至った根拠・理由については、以下の「2. 評価項目ごとの評価」において述べる。
さらに、評価項目ごとに、主な「優れた点」「改善を要する点」をまとめ、達成度を総括する。

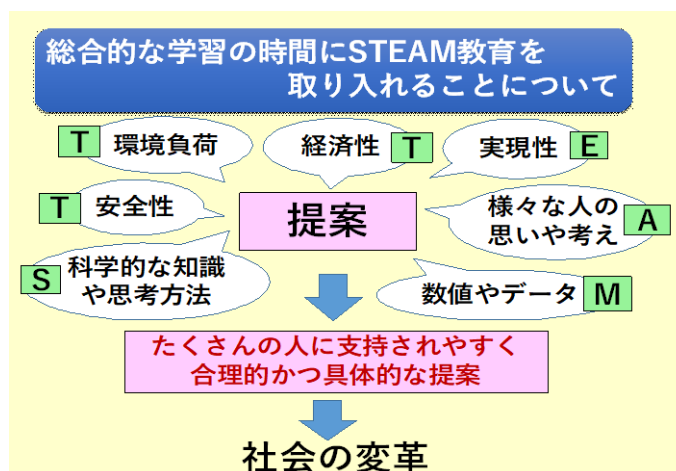
2. 評価項目ごとの評価

（1）評価項目1「STEAMIC（STEAM for IC）教育の推進」

評価項目1について、文部科学省が推奨している STEAM 教育等の教科等横断的な学習を受け、独自にインクルーシブ教育（Inclusion in education）とシティズンシップ教育（citizenship education）を加味した STEAMIC（STEAM for IC）教育が推進されてきた。各教科において「探究的な学習の充実」に着目して研究実践に取り組み、授業研究会では教科の垣根を超えて協議されてきた。学校関係者評価委員会では、徳島県議会事務局へのフィールドワークに基づく「模擬県議会」を、12月に本年度2回目で開催した公開研究発表会の成果と県外の研究先進校（高校）視察を踏まえてさらなる発展を目指している点から、学校の自己評価で判断された「B 達成されている」以上が妥当であるとし、学校関係者評価を「A 十分に達成されている」とした。

【学校の取組】

各教科において、「探究的な学習の充実」に着目して研究実践に取り組み、5月の教育研究発表大会で公開授業・授業研究会を行った。この協議内容を受け、各教科が目指す資質・能力の育成とあわせて、学習や日常生活等の様々な場面で、探究的に学ぶ生徒を育成する取組が実践された。その成果は12月に2度目となる公開研究発表会で、3年生の「模擬県議会」として発表された。これら取組による STEAMIC 教育を高等学校の総合的な探究の時間に接続させ、探究的な学習の充実を図る方向に向かっている。学校が設定した探究的な学習の実践化構想を右図に示す。



【優れた点】

- ① 年間指導計画の見直しを取り入れたことで、各分野のバランスを保ちながら、より幅広い活動ができ、探究的な学びへとつながられている。
- ② 探究的な学びを目指す中で、実践の中から個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた手がかりとなる取組が多く見出せている。
- ③ STEAMIC のそれぞれの視点を意識させたことにより、模擬県議会における「徳島県の課題」に対する解決策の具体的提案がなされ、従来の議案書より深みのある内容となっていた。
- ④ STEAMIC の視点を取り入れたことで、生徒は課題解決への道筋がよりわかりやすくなり積極的に活動する要因となっていた。
- ⑤ 以上から、今後も継続して STEAMIC 教育に取り組むと意義が明確になり、教科間の取組の中でも生かしていける手応えを得ている。

【改善を要する点】

- ① 教材研究を深める中で、大学教員からのアドバイスは大いに参考になることから、意見交換したり十分に話し合ったりする時間の確保が必要である。
- ② 英語も含めたコミュニケーションの目的・場面・状況を明確にし、海外との対面交流に加えて、文面で交換できる学習状況を整えられれば、作ることができれば、探究的な学習を深めるであろう。
- ③ 総合的な学習の時間に取り組んだ「模擬県議会」は、取組過程におけるコストパフォーマンス&タイムパフォーマンスが高く、日程や連絡調整等に係る負荷が大きいことから、持続可能性が課題である。
- ④ 「題材の自由度」を高めることは徒の主体性を向上させるが、授業内での「不確定要素」への対応が求められることから、生徒の現状を踏まえた課題設定や到達度を考慮した取組計画をする必要性がある。

(2) 評価項目 2 「いじめの防止」

評価項目 2 について、いじめは、どこの学校にもあり得るという認識のもと、その防止に向けて、早期発見と対応に向けて全校一丸となって取り組んでいる。具体的には、「ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から複数の教職員で適切に関わり、いじめを隠したり、軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知する」ことを全教職員共通理解のもと、「生徒指導委員会」を核に組織的に取り組まれている。学校関係者評価委員会では、今年度の特筆される取組伝統行事の復活がいじめを生まない学校づくりに寄与していることと従来の取組を徹底していくことを確認し、学校の自己評価で判断された「B 達成されている」以上が妥当であるとし、学校関係者評価を「A 十分に達成されている」とした。

【学校の取組】

従来のいじめアンケート（2 回）や Q-U 調査による実態把握、「生徒指導委員会」（月 1 回：管理職、各学年主任、いじめ防止担当教員、養護教諭）を核とする組織的・継続的指導、スクールカウンセラー（週 1 回）による個別相談に取り組まれた。特に今年度は、「徳島県児童生徒 6 万 5 千人のいじめ防止一斉学習 2024」に参画して 12 月に全学年での授業実践、生徒と担任の二者面談（年間 3 回）が行われた。また、いじめを生み出さない安心・安全な学級作りを目的に、伝統行事である「新入生歓迎音楽会」や文化祭における 3 年生全員による「はれるや合唱」が復活実施され、新たな附属中ブランドに変容しつつある。

【優れた点】

- ① 生活記録のやりとりにより生徒の考えていることや現状を把握することができ、生徒の表情や様子を捉えて介入するなど、生徒視点での対応にシフトチェンジされてきた。
- ② 生徒間のトラブルに対して初期段階から、丁寧に聞き取り、指導の理由を生徒・保護者共に確認のうえ、指導記録をもとに共通理解を図りながら進められている。
- ③ 生徒が巡視中の教員に些細な悩みでも気軽に話しかけてくるようになり、生徒と教師の距離感が縮まってきた様子からは、生徒は常に教師に見守られているという安心感を持てるようになってきた。

【改善を要する点】

- ① 生徒とのコミュニケーションを積極的に図るためには、業間や昼休み等の限られた時間帯だけでなく、授業内で一声掛けるなどの日常業務での工夫が求められる。
- ② 生徒の小さなサインを見逃さないよう、学校生活の様子や家庭の情報などを教員間で密に交換・共有して対応する連携態勢を意識化する工夫を検討いただきたい。
- ③ 生徒の多種多様な価値観を認め合いながら、学級に対して居場所感をもたせる学級づくりには、復活した行事等の取組を再検討し、継続して取り組んでもらいたい。

（３）評価項目３「基本的生活習慣の徹底」

評価項目３について、生徒が有意義な学校生活を送る上で基盤となる基本的生活習慣に「あいさつができる」「人の話が聞ける」「時間が守れる」「掃除を一生懸命する」の４つを重点化し、「凡事徹底」を学校生活の基本方針に担任が学級指導で徹底を図ってきた。学校関係者評価委員会では、取組に対する一定の成果は上がっているものの、思いやる心や愛校心を涵養する目的を徹底すべきことから、学校が自己評価で判断された「**B 達成されている**」が妥当であると評価した。

【学校の取組】

「凡事徹底」は学校生活の基本であり、それをもとに学力を向上させたり人間関係を形成できたりすることを職員会・学年会等で共通理解を図り、全校集会や学級指導等できめ細く継続した指導を推進した。特に、コミュニケーションの基本である「聴くこと」を周知徹底し、聞き逃しは、自他共に損したり迷惑となることを意識化させた。将来の社会人を見越したシティズンシップの育成を目的とした日常的取組を継続して推進した。

【優れた点】

- ① 時間の厳守や聴くことの意義をしっかりと考えさせ理解させることで、徐々にではあるが主体的・能動的に行動する生徒が増えつつある。
- ② 生徒会を中心とした毎朝のあいさつ運動でも、自分からあいさつすることにより、１日のスタートが充実したものになることを実感する生徒がふえた。継続性が期待できる生徒会活動の成果である。

【改善を要する点】

- ① 「凡事徹底」を学校生活の基本方針として、自校内だけでなく来校者等へのあいさつを通して、思いやる心や愛校心を涵養する取組へと進展させるため、保護者や地域と協力・連携する態勢を継続して取り組んでもらいたい。

参考 学校の現況及び目標

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
(2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
(3) 学級等の構成
1学年 4学級 2学年 4学級
3学年 4学級 計12学級
(4) 生徒数及び教員数(令和4年5月1日)
生徒数 401人 教員数 24人(正規教員)

2 目標

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学(以下「本学」という。)における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
②鳴門教育大学の学部学生の実地教育(教育実習)及び大学院生との教育実践研究等を行う使命
③教育界の課題の解明に努め、関係機関と連携し、本県中学校教育推進に寄与する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 優しく思いやりの心を持ち、人の気持ちがわかる生徒
○目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
○強い意志と体をもつと共に、しなやかに生きる生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒と共に伸びる教師
○ゆるぎない使命感、鋭い教育観をもった教師
○優れた指導力をもった教師
○強い責任感をもって、何事にも丁寧な対応ができる教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学問学校
○情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
○強健な身体を練る体育学校
○敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 令和4年度重点目標(実践事項)

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現
ア 主体的に学習に取り組む態度の育成
一 粘り強い取組を促す手立ての工夫
イ STEAMIC(STEAM for I・C)教育の推進
② いじめの防止
ア 人を思いやる言動や周りへの気配りができる集団づくり
イ 対話等を通じた深い生徒理解と信頼関係の構築
③ 基本的生活習慣の徹底
ア 校内で出会うすべての人に自分から元気なあいさつができる習慣付け
イ 時間の厳守や清掃等、決められたことが確実にできる集団づくり

(4) 令和4年度評価項目(評価指標)

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現
ア 保護者対象アンケート(7月と2月に実施)
イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「学習指導」
② いじめ防止
ア 保護者対象アンケート(7月と2月に実施)
イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「児童生徒指導等」
③ 基本的生活習慣の徹底
ア 保護者対象アンケート(7月と2月)
イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「学級経営・学校運営・校務の処理・その他」